

みぢかな季節かんじ隊

調査結果報告書（ツバメ）



富士見町原之郷



江田町

目次

-
- | | |
|---------|------------|
| 1 調査の目的 | 5 調査地点 |
| 2 調査の内容 | 6 参加者の声・写真 |
| 3 調査の結果 | 7 参考資料 |
| 4 調査データ | 8 事務局より |

1 調査の目的

環境基本計画が位置づける5つの環境像の一つ「市民・事業者が主体的に環境保全活動に参加するまち」を実現するために、次世代を担うこども達をはじめ広く市民に対して自然環境調査を実施しています。身近な生物を通じて自然に触れ、継続して調査をすることによって前橋市域の自然環境やその変化を知り、環境保全に対する意識啓発を図ることを目的にツバメの調査を実施しました。

2 調査の内容

調査の対象は、対象地域が市内各所にあること、私たちが身近な自然として感じられることを考慮し、「ツバメ（ツバメ・イワツバメ）」としました。

(1) 調査の方法

- ①調査に参加する方を募集しました。（調査に参加した方を「隊員」といいます）
- ②隊員は、調査する場所を決め、期間内に調査を行いました。
- ③調査の結果は調査票にまとめ、事務局に提出いただきました。

(2) 調査の概要

テーマ	指標生物	調査内容	調査期間
ツバメの調査	ツバメ、イワツバメ	初見日、巣の場所	3月15日(月)～8月23日(月)

3 調査の結果

ツバメ

- ・調査隊員数：14名
- ・調査地点数：21地点
- ・確認種類(件数)：ツバメ（19件）、イワツバメ（2件）
- ・調査隊員の中で最も早い初見日の観測データ：3月19日



〈参考〉前橋地方気象台の観測データ

観測	H28	H29	H30	H31(R1)	R2
初見日	4月13日	4月17日	4月10日	4月3日	3月26日
平年差	+13	+17	+10	+3	-5
昨年差	+3	+4	-7	-7	-8

平年差（昨年差）が、正の数の場合「平年（昨年）より遅い日数」、負の数の場合は、「平年（昨年）より早い日数」を示しています。

4 調査データ

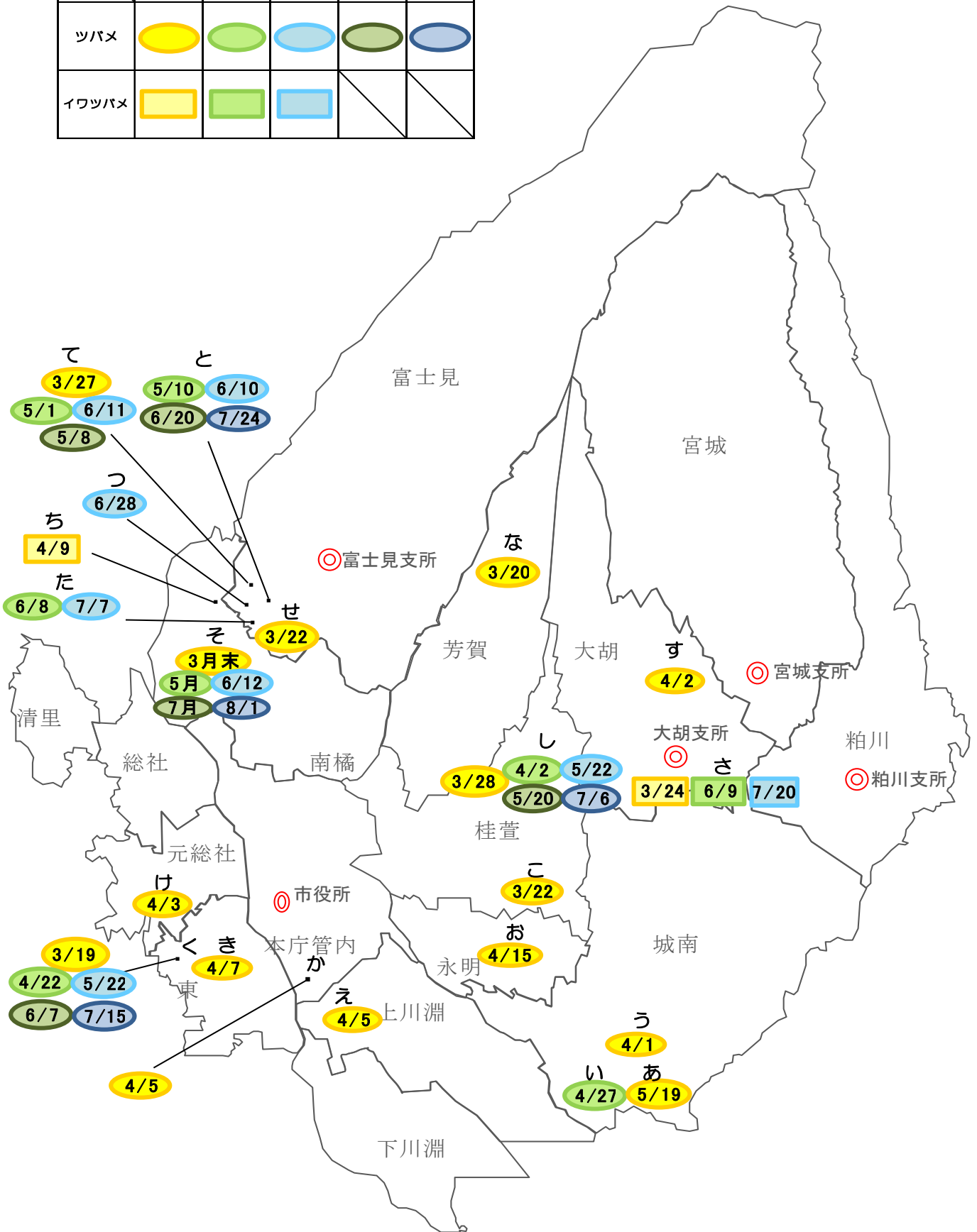
市民自然環境調査「みぢかな季節かんじ隊（ツバメ）」調査結果

番号			調査場所				ツバメの種類	観察日				
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
No.	地点番号	隊員番号	町名	名称(地点名)	建物の種類	(その他)	ツバメの種類	初見日	1回目 抱卵確認日	1回目 巣立ち	2回目 抱卵確認日	2回目 巣立ち
1	あ	11	下増田町	自宅近辺	その他	田畑	ツバメ	5月19日	—	—	—	—
2	い	2	駒形町	町内	戸建て住宅		ツバメ	—	4月27日	—	—	—
3	う	2	小屋原町共愛学園前橋 国際大学付近の空地	駐車場	学校や公共施設		ツバメ	4月1日	—	—	—	—
4	え	12	上佐鳥町 新町地区	新町地区全世帯	戸建て住宅 戸建て商店 ビル 集合住宅 学校・公共施設 倉庫・車庫		ツバメ	4月5日	—	—	—	—
5	お	4	下長磯町	麦畑	その他	田畑	ツバメ	4月15日	—	—	—	—
6	か	9	天川原町	協立病院西側の道路 ハイジアマート前の 交差点付近	その他	電柱	ツバメ	4月5日	—	—	—	—
7	き	10	小相木町	自宅付近	集合住宅		ツバメ	4月7日	—	—	—	—
8	く	6	江田町	自宅	戸建て住宅・		ツバメ	3月19日	4月22日	5月22日	6月7日	7月15日
9	け	13	元総社町	自宅	戸建て住宅		ツバメ	4月3日	—	—	—	—
10	こ	3	江木町	谷地沿	その他	公園の池	ツバメ	3月22日	—	—	—	—
11	さ	8	大胡町	自宅	戸建て住宅		イワツバメ	3月24日	6月9日	7月20日	—	—
12	し	7	亀泉町	亀泉接骨院	戸建て商店		ツバメ	3月28日	4月2日	5月22日	5月20日	7月6日
13	す	5	堀越町	自宅	戸建て住宅		ツバメ	4月2日	—	—	—	—
14	せ	14	富士見町原之郷	自宅	戸建て住宅		ツバメ	3月22日	—	—	—	—
15	そ	14	川端町	知人宅	戸建て住宅		ツバメ	3月末頃	5月	6月12日	7月	8月1日
16	た	14	富士見町原之郷	知人宅	戸建て住宅		ツバメ	—	6月8日	7月7日	—	—
17	ち	14	関根町	細ヶ沢川橋	その他	河川	イワツバメ	4月9日	—	—	—	—
18	つ	14	富士見町原之郷	知人宅作業場	倉庫・車庫		ツバメ	—	—	6月28日	—	—
19	て	14	富士見町原之郷	リヴァージュ美容院	戸建て住宅		ツバメ	3月27日	5月1日	6月11日	5月8日	—
20	と	14	富士見町原之郷	五十嵐医院	その他	個人病院	ツバメ	—	5月10日	6月10日	6月20日	7月24日
21	な	1	金丸町	自宅	戸建て住宅		ツバメ	3月20日	—	—	—	—

5 調査地点

【凡例】

	初見日	1回目 抱卵 確認日	1回目 巣立ち	2回目 抱卵 確認日	2回目 巣立ち
ツバメ					
イワツバメ					



6 参加者の声と写真（一部抜粋）

・ 隊員番号 2

桜が舞い散るときに桃ノ木川をツバメの初見（4/1）、シャッターを切れたのは4/3です。駐車場の水たまりに多くのツバメが立ち寄っていました。



い 駒形町

ツバメの巣で親が温めているようだ。



う 小屋原町

共愛学園前橋国際大学付近の空き地

・ 隊員番号 13

初見日から4～5日は飛び回っていました。

8月9日午前7時頃、近くに電線に15羽が鳴いていたが10分位で飛び去りました。

その後、ツバメは見掛けません。（昨年の初見日：4月6日）

・ 隊員番号 5

昨年、カラスの襲撃を受けて、排卵中の巣を壊されてしまいました。

今年は、2度、3度と巣のあった場所を確認に来ていましたが、巣作りすることはありませんでした。今年は、雀の巣も被害にあい、残念です。

・ 隊員番号 8

我が家での巣は玄関入口上のわずか横の位置です。

作り始めて15～16年は装っておりますが、3年前はヘビだかカラスにやられてしまい、巣立ちできなかった年もありました。

今年も7/10夕方ヘビを見つけ難を逃れました。毎年3ヶ月前位から2羽で飛来し、同じ場所を行ったり来たり1ヶ月に1～2回来、結局最後は同じ場所に作ります。飛び立ってから2～3日は夜には必ず戻って入っております。

飛び立つ時は、親戚一同か仲間達総勢親子大小50羽以上？30分位我が家の周りを乱舞飛して感激の姿を見せて何処かかなたへ飛び立って行きます。今年も7/21（水）に見せてもらい家中感激してしまいました。

私達人間が毎年親子の情愛深さを見させてもらっております。

親ツバメの活躍素晴らしいの一言です。ありがとうございます。



さ 大胡町

・ 隊員番号 3

今の冬は温暖な気候だったので、ツバメの飛来が早いかな？と思いつつ、昨年観察の場所へ何度も出向きました。

1日の中でいつでも飛んでいるわけではない様なのですが、やっと！この日に2羽のツバメが池の水面の上を飛び交う姿を見つけました。（参考：他の確認日3/23）

・ 隊員番号 1

3/21 早朝 入口玄関の上 いつも巣を作る所にとまっていたました。

昨年は3/29でした。夕方帰ってきて、寝ています。1羽

・隊員番号12

当地区（上佐鳥町新町地区）は約70戸の住居があります。
例年ですと2〜3軒の軒下にツバメが巣を作るのですが、なぜか今年は一つの巣も見当たりません。
空に飛んでいるツバメは見かけるのですが、その数も極めて少ないです。
残念ながら、調査は成功しませんでした。

・隊員番号14

毎年玄関前に営巣しています。今年は2回、別々の場所で繁殖しました。

7月15日



7月22日



7月22日

カラス除けのテープに止まる親ツバメ



と 富士見町原之郷五十嵐医院

・隊員番号6

毎年ツバメが来てくれるのを子どもたちと楽しみにしている我が家です。
今年は3月19日に1羽のツバメを見つけ、パートナーを心待ちにしているようで電線にとまり
さえずりがよく聞こえていました。
3月29日にペアでいるところを確認しました。
古巣の修復をし、利用していた巣に7個の卵が産まれました。
昨年、卵が落とされてしまう悲劇があったので心配していましたが無事孵化し7羽のヒナが誕生
しました。

5/18 朝、巣の一部が半壊していましたが巣とフン受けにヒナたちはおり無事でした。おそらく古
巣の経年劣化（約4、5年もの）が原因かと思います。天敵のカラスなどの被害かもと心配しまし
たが、ヒナは皆無事でホッとしました。
巣立ち後2日ほど夜は我が家にお泊まりしてから姿を見なくなりました。

2回目の子育ては古巣の隣の古巣（約3、4年もの）を利用し、6個の卵が産まれました。無事6
羽孵化しました。
7/14 3羽のみ巣立ち、電線にとまり親ツバメが給餌する様子が見られました。
7/15 巣が空っぽになり、みんな巣立ちました。
夜は3羽お泊まりしていました。

他のツバメや1回目に巣立った子たちはどこでどのように過ごしているのかなど、ツバメの生態
をより詳しく知りたくなりました。

また、命を育む様子を身近に感じた子どもたちも生き物への関心を持ち、自然を学ぶ良いきっかけ
になると思います。
ちなみに、プラスチック段ボールの手作りのフン受けは子どもたちと作成しました。

ヒナがたくさん産まれるのは餌が豊富な証というのを聞いたことがあるので、この素晴らしい環境
をこれからも守っていきたいなと強く思いました。

・隊員番号 14

2014 年夏に上武道路にかかる細ヶ沢川橋が完成し、2015 年春から橋桁でイワツバメの営巣が見られるようになった。その後毎年繁殖が見られたが、2018 年をピークに飛来数が減少し今年は何羽の姿も見られたものの、繁殖は確認できなかった。原因は不明。
(細ヶ沢川橋の上流にある岡城橋でも今年は何羽も見られなかった。)



5月8日

古い巣をリフォームしているように見えたが、その後繁殖している様子はなかった

今年は外敵の襲来もなく 2 回繁殖、1 回目は 4 or 5 羽が無事巣立ちました。2 回目もヒナは 5 羽いたようですが、巣立つことができたのは 3 羽でした。

6月12日

そ 川端町 知人宅

7月24日



玄関にあるツバメの巣、親ツバメと変わらない大きさとなった雛が並んでいる。以前も記載したが急成長である。既に巣立った雛もあり、親ツバメが早く巣立つように鳴き声で誘っている。

巣立った雛は尾羽が短く、判別は可能である。また、当分の間、夜間はまたこの狭い巣へ戻ってくる。親ツバメは巣立ちを急かすには理由があり、限られた夏の間に次(2回目)の子育てを行う為である。皆、無事に巣立って欲しいものである。



つい先日、嘴しか見えていなかったのに急成長である。あと1週間？今年2回目の巣立ちを迎えようである。画像の様に2回目は4羽のようである(昨日撮影)。親の餌運びもフル回転、大忙しである。

昨日撮影と書いたのは今朝、一羽、庭で死亡？、それ以前に小さな雛のミイラもあり、当初は5羽であったようである。外敵に攻められた様子はなく、画像の雛も痩せた感じ、飢えや渴ぎで息絶えたと思われる。

玄関先の出来事ながら自然界の生存競争は厳しいものがある。得られる餌の総量から必然的に巣立ちできる雛の数が決まる、守っているのである。

3月22日が初認日です。

家の近くで数羽飛んでいました。(画像参照)

6月25日、若いペアだと思われませんが、玄関の壁に土を運び巣作りを始めました。

29日にはできあがり、中に入ったり、夜は巣で休んだりしていましたが、7月5日以降やっとなくなりました。

せ 富士見町原之郷



3月22日初確認



6月29日 巣が完成



6月30日夜9時ごろ 休むペア

(右が♂、左が♀)

7 参考資料

ツバメの特徴

ツバメは、春の訪れとともに日本にやってくる夏鳥です。巣作りも子育ても雌雄が協力して行います。夏の終わりころ南の国への渡去準備のため群れになります。

ツバメが好む住環境

ツバメのえさとなる虫がいる田んぼや川等水辺が近くにある場所



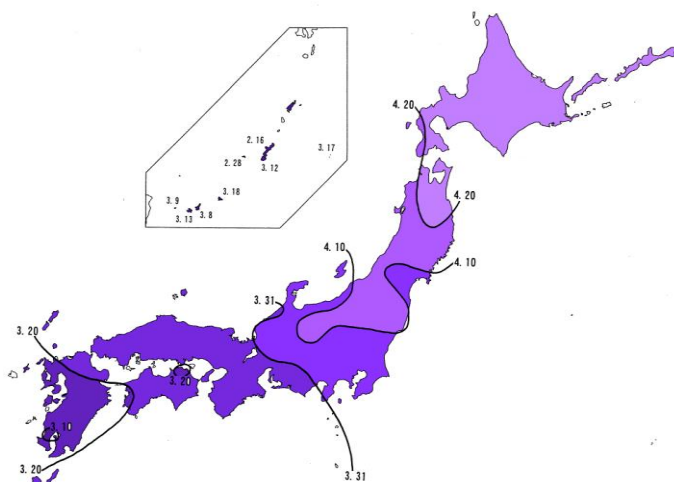
ツバメ・イワツバメの違い

	ツバメ	イワツバメ
見分け方	 額とのどは赤褐色 17 cm 尾は細長い	 14~15 cm 腰は白色 尾は短い
巣作り場所	商店や住宅の軒下に巣を作る	山や海岸の崖、ビルや橋などに集団で巣を作る
分布	北海道や九州、種子島 (北海道では道南にほぼ限られる)	北海道や九州 (西日本では局地的で少ない)

イラスト：担当者

ツバメの初見日の等期日線図

(1981~2010年 平年値)



ツバメの初見は、3月上旬から九州地方南部で始まります。3月20日に九州地方、四国地方に達し、3月31日に中国地方、近畿地方、北陸地方、中部地方を結ぶ地域、4月10日に東海地方、関東甲信地方、東北地方南部を結ぶ地域、その後、東北地方北部を北上し4月下旬に北海道地方に達します。

〈気象庁HP「生物季節観測」引用〉

8 事務局より

今年は、14名の隊員の皆様から21地点のご報告をいただきました。隊員の皆様には初見日から巣立ちまで、長期にわたりご協力をいただき誠にありがとうございました。

隊員の皆様がツバメを大変温かく見守っている様子を感じることができ、とても嬉しく思います。今年はツバメを見られなかったという声も多数寄せられました。自然環境の変化や巣を作る場所の減少が一因となっていると思われます。環境に配慮した取組への参加やツバメの子育てを見守ることでツバメが住みやすい環境を皆で作っていきましょう。

今後も「みちかな季節かんじ隊」の調査へのご協力をお願いするとともに、日々の生活の中におきましても身近な生き物を通じて自然環境に目を向けていただければ幸いです。

「前橋市環境都市宣言」

前橋市環境都市宣言

私たちのまち前橋は、雄大な赤城山を背景に利根川、広瀬川などの美しい流れと緑豊かな自然に恵まれています。

この環境を楽しみ、守り、育て、将来の世代に引き継いでいくことは、私たちに与えられた権利であり、責任でもあります。

私たちは、恵み豊かな環境を守り、より良い環境を築き、人と自然が共生する環境・文化都市を創造するため、次のことを宣言します。

- 一 環境を汚すことのない、まちづくりを進めます。
- 一 動物や植物と身近にふれあえるよう、地域の自然を守ります。
- 一 美しい川の流れや木々の緑などをいかして、住みよいまちをつくります。
- 一 地球にやさしい環境づくりを、私たちの家庭・地域から始めます。
- 一 みんなで良い環境を守り、つくる活動に参加します。

平成十六年七月二十九日

前橋市環境都市宣言について

本市では平成12年3月に、環境への負荷の少ない循環を基調とした持続的発展可能な社会の構築を目指して、環境基本条例を制定しました。

また、平成16年7月29日には、環境基本条例の精神や基本方針、並びに環境基本計画の5つの環境像をコンセプトとして、本市の環境政策全般に関心をもっていただくために、環境都市宣言を行いました。

このことを市民の方々へ広く普及・浸透させるために、各種イベント等を通じてPRをしていくとともに、「市民の皆様が改めて環境に対して意識を向けていただくとともに、実際に行動していただく」、「環境教育の充実」、「水と緑豊かな環境都市づくり」、「循環型社会のシステムづくり」、「環境活動への市民の皆様や民間事業者の参加」を目指して行きます。

なお、今回の宣言は昭和58年の「市民憲章」、平成元年の「平和都市宣言」「水と緑の健康都市宣言」に続き、前橋市として4つ目の宣言文となります。